

# し け み ち な ご の 四間道・那古野界限まちづくり協議会 始動

浅野 健

超高層ビルの再開発が相次ぎ、リニア中央新幹線の開通が予定されるなど活気づく名古屋駅のすぐ近くに位置し、歴史文化が息づく「四間道・那古野界限」。この界限で、地元の商店街や学区の地縁組織、まちづくり団体等で構成し、研究者や市も参画するまちづくり協議会が発足した。今後、四間道・那古野界限の活性化を目指し、地域の考えを結集してまちづくり構想の作成を目指す。

## 四間道・那古野界限について

このスペースは社外報ラバダブで、四間道・那古野界限に関連する記事が初めて登場したのは第五号の二〇〇二年。名古屋市区の特色ある区づくり推進事業を発端として、名古屋城の西側、名古屋駅の北側に広がるものづくり文化の道と呼ばれるエリアにおいて、様々なまちづくり活動が展開され、ラバダブでも何度か紹介してきた。

四間道・那古野界限は、ものづくり文化の道エリアの中でも名古屋駅近くになりながら、昭和のレトロな雰囲気を感じ出す円頓寺商店街、戦災を免れて土蔵と商家が残る四間道・美濃路・堀川沿いの町並み、菓子問屋街もあり、歴史文化やヒューマンスケールを感じさせてくれる場所である。しかし、この界限も全国の中心市街地の傾向の例にもれず、空家・空店舗の増加、高層マンションの増加などの課題を有している。

## 四間道・那古野界限での市の関わり

行政である名古屋市の主な関わりを改めて整理すると、幹線道路である江川線沿いの泥江第一種市街地再開発事業（一九八四年工事完了）、町並み保存地区の指定（一九八六年指定）を行っており、前述の西区の特色ある区づくり推進事業が二〇〇〇年度より実施されている。

近年になって、市が計画や構想を作成しており、これらの中で四間道・那古野界限に関する位置づけを行っている。例えば、二〇一一年十二月に名古屋都市計画マスタープランが策定され、納屋橋・四間道地域が二十六の重点地域の一つとして位置づけられている。また、昨年十月に策定された堀川まちづくり構想でも「四間道エリア」が位置づけられている。さらに、市の外郭団体である名古屋都市センターの二〇一一年度自主研究で「那古野地区のまちづくりの方向性」が「那古野スタイルの構築」がまとめられている。

## まちづくり協議会発足へ

こうした市の関わりの中で、地域まちづくりを進める上で中心となるのは、名古屋都市計画マスタープランである。このプランでは、戦略的まちづくりを支える仕組みとして、「地域がより良くなるために、地域の力（考え）で地域を育てること」、すなわち「地域まちづくり」を進めるとしており、その方法として、地域ごとに団体（協議会）を組織し、「まちづくり構想」づくりと、構想に基づく「実践」をしていくこととしている。

この「地域まちづくり」を市内で進める上でのモデルの一つとして、市が四間道・那古野界限を取り上げた。昨年度から地縁組織やまちづくり団体等が参加して、市の支援を得て準備会を開催して七度の検討を重ね、昨年十月十五日に、十四の団体で構成する「四間道・那古野界限まちづくり協議会」が発足した。

この協議会を構成する団体は多彩だ。学区の区政協力委員、商店街組合の役員、この界限のイベントを手掛ける団体、空家・空店舗活用に取り組む団体、堀川のまちづくりに関わる団体、歴史の掘り起こしに関わる団体など、前述のものづくり文化の道の関連事業で活動してきた団体や都心部を中心に広域的に活動している団体等も含まれている。また、この界限のまちづくりに関わりのある複数のアドバイザーの先生方にも支えられている。

既にまちづくりを実践している団体が多数関わったこともあり、昨年度、設立準備に向けた会議を行った時は、「行政が地域に何を求めているのか」「何を議論する協議会なのか」といった質問や疑問の声が聞かれた。今年度に入っても引き続き、各団体の活動内容や四間道・那古野界限に対する課題認識や想いについて意見交換を重ね、発足するに至った。

## まちづくり構想の作成・実現に向け

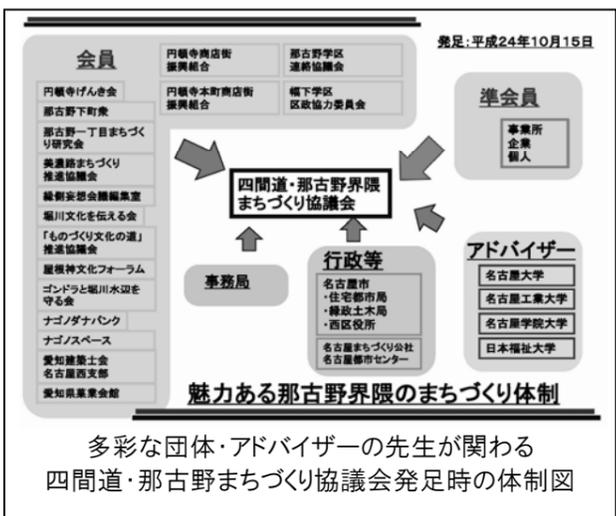
協議会が発足したとはいえ、地域まちづくりは、協議会に関わる団体だけでなく市も初めての試みである。そもそも「ま

## まちづくり構想

「そのものが市民にとってなじみがなく、どんな内容を構想に盛り込んでいくのか、また構想づくりにどういうプロセスを踏まえて取り組むのか手探りの状態だ。この協議会で議論して作成するまちづくり構想を地域の住民にどのように周知していくか、あるいは協議会の参加メンバー以外でも意欲のある人に対し協議会の取り組みにどのように参加を促していくかという課題もある。

また、四間道・那古野界限を取り巻く周辺にも動きがある。名古屋駅周辺では、二〇二七年のリニア中央新幹線の開業に向け、駅周辺の開発に拍車がかかると思われる。名古屋でも、本丸御殿の建設や金シャチ横丁プロジェクトの検討などが行われている。

協議会を進めていく上では、こうした様々な課題や動きがある中で、試行錯誤しながら取り組んでいくことになるだろう。多彩なメンバーの方々の知恵を結集して構想づくりができれば、名古屋ではあまり例がない民間主導のまちづくりのモデルとなる取り組みになる可能性がある。この協議会の事務局を担っていることを好機と捉えて、今後も支援していきたい。



名古屋駅と名古屋城の間に位置し、歴史文化が息づく四間道・那古野界限（ で囲まれたエリア）

